

る。現在の監督、吉澤友博さんそのような中、昨年変化が起こ 濵砂光貴さん(26) 定して指導を行うようになった。 程前からは小学3年生以下に限 チが徐々に減ったことで、15年 緒に練習に励んでいたが、 (42)の就任当初の教え子4人が クラブ発足当初は高学年も一 チとして戻ってきたのだ。 コー

> 記憶を残してほしいですね。」 ています。子どもたちに楽しい 自身に考えさせる指導を心掛け しかったです(笑)。子どもたち

若き指導者たちの勢いに乗っ

意を上原さんが手掛けたエンブ

レムのデザインに込めたー

けまい進する。そして、その決て、クラブはさらなる発展に向

私たちも教わっていた当時 自分たちの楽しい思い出を

いたものの、、つうし当初は顔を出すくらいと思って めたきっかけ。 「このチームがサッカーを始 チになった

が詰まったデザインで

松橋ジュニアサッカークラフ

教えています。」 作ってくれた恩返しの気持ちで 石本研成さん(26) の監督と同じ年齢になりまし

吉澤監督と小川コーチの想い

小川 「まずは子どもたちが ことにしました。エンブレム として戻ってきてほしいとい 子どもたちのために、 サッカーに夢中になってほし う象徴そのものなんです。」 は地域の代表として戦うとい ムを離れても、将来、 地域に誇りを持ってもら いですね。成長し、このチー いと考え、エンブレムを作る 指導者 地域の

上原 「エンブレムは、 吉澤 「エンブレムのMJF。 どもたち、保護者、 寿や向上心を表す松ぼっくり タッフみんなが家族です。」 Fはファミリーの頭文字。子 O B X

う想いもあります。」

本拠地の豊川グラウンド では、時に真剣に時に楽

が響き渡る試合会場では

子どもたちのプレーにも

一段と熱が入る

左から 監督 吉澤友博さん デザイナー 上原史寛さん コーチ 小川直利さ ん 3人は中学時代の同窓生でもある

デザイン展」で発表されるそう。 伝いができて良かったです。上原 「想いをカタチにする手 **吉澤** 「子どもたちにも将来、 もっとサッカーを好きになっ を育てて、いい循環を生み出 てほしいですね。」 となったものです。」 で皆さんの想いを聞き、 たいという気持ちを表しまし この物語の全貌は、「地域と たらうれしいですね。」 て、監督たちの想いが伝わっ していきたいです。」 積極的に地域の活動に携わっ た。これは、このグラウンド 支え、それを次世 「地域貢献できる子たち どもたちを へつなげ 象徴

地域とデザイン展 不知火美術館

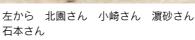
 $_{_{2021}}$ 1.6 $_{_{D}}^{W}$ > 2.21 $_{_{N}}^{s}$

池松さんと

美術 10*)* ところ

地域とデザイン展内容

観覧料 大人





北園智哉さん(26) 参加(笑)。楽しそうな子どもた 「環境が変化し、

小崎凌さん(26) た思い出が増えてきました。」 わることの楽しさから復帰。 の成長を見守りながら指導に携 「以前は今と比べて指導が厳 から離れましたが、 みん